

令和6年度 8 月 定例教育委員会会議録

令和6年8月20日(火)

山梨市教育委員会

## 令和6年度8月 定例教育委員会 議事録

令和6年8月20日(火)午後1時15分から、山梨市役所401会議室に召集された。

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 前回議事録の署名
- 4 協議事項
- 5 報告事項
- 6 連絡事項
- 7 閉会

### ○出席者

教育長	嶋崎 修
教育長職務代理人	天野 有紀
教育委員	窪田 新治
教育委員	原 喜雄
教育委員	相沢 季里

### ○欠席者

教育委員	鈴木 徹
------	------

### ○事務局職員出席者

学校教育担当 指導主事	内藤 健
学校総務担当 リーダー	大島 芽久美
学校総務担当(議事録作成者)	小田切 咲紀
学校教育担当 リーダー	前嶋 裕樹
学校管理担当 リーダー	高原 あゆみ

生涯学習課 課長	武井 学
----------	------

#### 4 協議事項の内容

教育長

議事に入る。(1) 全国学力・学習状況調査の結果について、事務局から説明をお願いする。

指導主事

資料1-1~3 に基づき説明

教育長

今の全国学力・学習状況調査の結果について、なにか意見等があるか。

原委員

ヤフーニュースに「秋田・学力トップクラスの副作用が不登校!」という記事が載っていた。本当かどうかは別だが、秋田は全国学力・学習状況調査で、連続でトップクラスの結果をだしていることで注目されてきたが、不登校が2020年度の278人から2022年度には小学校は476人に、中学校でも777人から1068人に増えているという。これが副作用になるかどうかかわからないが、例えば本市で小学校は213人中学校は222人が受験者とあるが、この数字は、いわゆる小学校で言うと全体の何パーセントの子どもたちの数字なのか、データなのか、中学校では何パーセントなのかというところを、統計上捉えておく必要があると思う。

教育長

いわゆる不登校でどのくらい受けられない子がいるかということの確認でよろしいか。

次回までに確認をお願いしたい。

指導主事

ちなみに不登校の基準とされている30日以上というところで、7月末までのデータ

で昨年度の数字と比較すると、小学校は、昨年度より7人多い状況で、中学校については6人少ない状況である。中学校は今のところ不登校も抑えられている状況になっている。ただ、15日以上休んでいる予備軍の子たちについては、小中とも昨年度ベースより3名ほど増えており、これから2学期以降少し増えてくることも予想されている。

## 教育長

大学の進学率が本県は東京について3番目ぐらいだったと思う。ところが、秋田県は全国最下位の様子で、学力あるから大学に行けということではないと思うが、いい面と悪い面があるのかなとは思っている。私たちも秋田県に何度も行ったりして、学ばせていただいたが、確かにいい面と悪い面があるのかなと思う。今も秋田県は学力をキープしているが、必ずしもそれがそのまま進学率や不登校みたいなものに結びついていくかというところでもない。

他にいかがか？

## 窪田委員

小学校が全国平均より若干下で、中学校に来てかなり伸びているということで、その原因の分析として、タブレットみたいなものを積極的に使っているとか、国語とか算数の勉強が好きだというような基本的な部分があったり、学級活動も人間関係がうまく作られているということがあげられている。それはそれで十分分かるが、それだけなのかなと感じる。なかなか難しいことがあると思うが、ベースはそれであっても、これだけ伸びる要因は何か。逆に小学校はそんなに学級活動やタブレットを一生懸命使っているのなら、6年生で伸びるでしょって思う。1年生はまだそんなにタブレットみたいなものを使っていないかもしれないが、例えば3年生くらいにはもうやっていて、学級活動もやったり、勉強が好きでということであれば、それなりに伸びるんじゃないの？と思う。そういうところの分析はやっぱりこれで済ましてしまうのは良くないのではないかな。この基本的な生活の部分だけでオッケーだ

から中学校行って花開いたんですよみたいな分析だと、それはそれで十分わかるが、やはり教育委員会とか教員としては、それで満足したら点数は伸びないよって思う。中学校は小学校の先生と違って、高校の先生もそうだと思うが、入試があるから点数に対してはシビアである。教科担任制ということもあるかもしれないが、やはりその辺をある程度分析して、教育的なこの教科書の授業の手法みたいな部分だとか、テストを受ける時のそういう心構えだとか、事前の準備だとか、そういうことも含めて分析しておく必要があるのかなと思った。

教育長

他にいかがか。

相沢委員

中学校の一番最後の質問で「スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていない」というものが出たが、県立高校の英語部会では、以前は暗唱スピーチコンテスト等をしていたが、それはある文章を丸覚えするだけでもう時代に合っていないということで、ディベート大会のようなものになってきている。今の中学校の英語は何をやっているか？

指導主事

今詳しく答えられないが、実は64番のこの質問の「スピーチやプレゼンなどまとまった内容を英語で発表する活動が行われている」については学習指導要領に載っていることである。次回の校長会ではきちんとこういった課題が出ているということで中学校の方に伝えていきたい。昨年度もこの64番の英語の設問が同じくマイナス5ポイント以上あり、同じ課題が2年続いているのでその辺もしっかり確認していきたい。

## 相沢委員

ディベートは、ただ英語だけを調べるということではなく、自分は肯定派にも否定派にも回り議論を深めていく。ただ意見を言い合うのではなく、証拠を出して積み重ねていき、ものを深めて考えとか、一つのを多角的に見るということに繋がる。英語でディベートなんてって皆さん思うと思うが、全然そんなことはなく、簡単な語彙を使って十分できる。中学生ぐらいの語彙でも十分できると思うので、中学校では簡単な内容でいいのでそんなことを生徒がやると、今まで英語にそんなに興味がなかった子も、自分の意見を出してまかりなりにできたということで、モチベーションを持つ。英語に対してこれだけのことが英語で言えたっていう。中学校の英語の教科書の中からもいっぱい題材が取れそうな感じだったので、ディベートのようなものを、取り入れていけばいいのではないかと。また、生徒にとってもいいのではないかと思った。

## 天野委員

小学校では算数が好きですか？という質問に対して肯定的な意見が多く、中学校では学力が伸びているが、数学・国語が好きですか？という質問に対して数値が下がってきているということだが、小学校では点数を取れるような学習は、もしかしたら足りなくて点数にはなかなか結びつかないかもしれないけれど、学習を楽しむ、そういう基礎的なものはしっかり身につけてきているのではないかと。それをもとに、中学校で入試も見据えた試験に対応できるような力をつけていく中で、中学校でこういうふうに伸びてきているというように捉えることができれば、小学校がこう数値的には上がってきてはいなくても中学校でこれだけグッと伸びるってことが何年か続けてこうやって見えてきているということは、小学校のあり方が決してよくない、改善すべきことばかりではないのではないかと感じた。

教育長

他にはいかがか。

事務局にお願いだが、28番の項目はICTについてであるがいくつも分かれているから資料がわかりづらいので、ICTの活用について言うと、こういうところが成果に表れていて、こういうところがまだというまとめ方がわかりやすい。

64番については、NLTを使った英語の授業もこれから効果が出てくるかと思うが、具体的な対応をぜひ提案して、去年からの積み残しであればなおさらなので、今年は後半に向けてどういうことをやっていくかという共通理解を図りたいと思う。

ほかに意見等あるか？

教育委員

なし

教育長

次に(2)その他、何かあるか。

教育委員

なし

## 5 報告事項

### (1) 第1回生活いじめアンケート集計結果について 指導主事 説明

教育長

何か質問等あるか。

原委員

こういうことがあった時、私もそうだが、被害者と加害者の個人の関係で捉えるが、一方、授業の中にこういう要因が潜む可能性も結構あるような気がする。例えば、宿題

を忘れてきて云々の時に教師の宿題の対応が厳しいと、他の子供がそれを先生はこんなにやっているのにお前はなぜやらないんだという作用反作用みたいなことも起こり得るというところで、授業運営等も見えていかないと、その子の服が汚いから家庭でなんとかしてくれよって以外に、その道徳とか学級活動だけでのみ対応すると、当人のみに要求を強いるような活動になってしまうので、まず授業自体が、学級として自己肯定感も持てるような運営がなされているかどうかという視点からも捉える必要がある。私は授業が基本になってくるのかなと思う。

教育長

他にいかがか。

天野委員

A 小学校の件で、この子の家庭環境にいろいろ課題がありそうで、これは学校と先生とその先生が家庭に働きかけるだけではなかなか解決できない問題かなと思うが、福祉の方との連携などを図られているのかもしれない範囲で教えていただきたい。

指導主事

確認する。

教育長

6月の生活アンケートで、この子にとっては日々が悩み苦しんでいることを考えると、まだ確認していないではなくそこが第1の対応になるのではないかと。集計を取ることが仕事ではなく改善するための仕事をしなければならない。

これはまだいじめが継続しているという捉え方でいいか。

指導主事

継続している。

教育長

だったらなおさらそんなところは、基本のきだからすぐに確認してこの場で発表しなければまずいと思う。例えば、(2)いじめの態様のところで②仲間外れ・集団による無視というのがB小は6件あるが、学校規模からすると多い。④のひどく叩かれた・ぶつかられた・蹴られたについて、A小が4件あり、⑧スマホ・パソコン等で嫌なことをされたについてC小が8件あるが、これは、異質かと思う。中学校と比べても圧倒的にこの数が多い。この辺のことも、あれおかしいなと思わないと。数だけ並べても困る。スマホがなんでC小だけ8件もあるのだろう。指導が足りないのか、持っている子が多いのかどうかも気になるが、その辺はどうか？

指導主事

そのスマホについてのところは気になったので問い合わせたところ今朝メールによる回答があり、8件ではなく1件で、表計算間違いだったとのことだった。

教育長

1件なら1件とここでちゃんと訂正する必要がある。

②と④についてはまた確認をお願いしたい。

他にいかがか。

天野委員

いじめを誰かに相談できているかというところが合計の数字になっているが、学校ごとに、ここの学校は相談できてない子が多いとか、学校内では、どの学年にそういう傾

向が強いのかとかがわかっていて、地域的なものや、学校のその雰囲気的なものだったり、そういうものがここに影響があるのか、もし分かれば知りたい。

#### 指導主事

特にそのようなデータはない。低学年については、些細なことでもすぐにあげてしまうので数も多くなってしまふ。実際、低学年で担任が確認するともうなくなっているとか終わっているというものが多い。学校ごとの偏りは特に見られない。

#### 天野委員

中学校で、③ひどく叩かれた・ぶつかられた・蹴られたに数字がある学校があるが、それは数が多くても少なくても見逃してはいけないと思う。その子たちが相談していないに入っていないことをすごく願うが、そこがきちんと把握できているのか気になるところである。

#### 窪田委員

この A4 で一枚にまとめてあるってということで、それはもう随分それで分かったが、いじめ行為が止んでいない事案のところには被害児童のことしか書いてなくて、加害児童にはどう指導しているのかということが見えにくい。もちろん一枚にまとめるために、よりわかりやすくするために書いていると思うが、やはり一言加害児童に対する指導についても必要。一番問題は、被害児童は絶対守るってことと必ず加害児童の指導をちゃんとしなければいけないということがあると思うので、学校として加害児童にどういう指導をしているんだということは、長々と必要ないが、一言付け加えておいた方がいいし、実際にどういう指導しているか知りたいと思った。

教育長

いじめを許さない、なくす、撲滅する。というのが、県と市の共通した考えだと思う。数字をまとめて満足ということではなく、今言ったことも含めて、次回また少し補足の説明をする。こちらから問い合わせしたら数が違っていただけは問題なので、本当に一喜一憂じゃないけど、増えた減ったを敏感に感じてないといけないと思うので、また次の機会にぜひこの補足の説明だとか、その後の経過について継続的に提案説明をお願いしたい。

相沢委員

すごく前にこのいじめの調査が出た時に、高等学校はすごい数が出たが、小中学校は全然出てこなかった。これは操作があるのではないかとすごく不安だった。でも、今こうやって小学校も中学校も子どもたちがこういう数をきちっと出せる学校環境というのは、とてもいいと思う。先ほどおっしゃったように低学年の子がただバカって言われたとか、そういうものももしかしたら数字に入っているかもしれないが、でも、それをちゃんと書けるということと、それをちゃんと校長先生たちが上に上げられる、そういう体制がすごく大切だと思う。だからこの山梨市内のその教育のシステムとしては、とてもうまくいっているなということ、この結果を見て感じた。

教育長

よろしいか。

## (2) 給食費について

学校給食センターL 説明

教育長

今年度前期については全額補助の形をとっているが、後期についてはまだ未定だった部分を、9月の定例議会に上程するということをご承知おきいただきたい。何か

質問や意見等あるか。

教育委員

なし

(3) 学校在り方検討委員会について  
学校教育担当 L が説明

教育長

子どもの数が減ってきた学校をどうしようかという、その単独の学校地域だけではなく、山梨市全体の学校を見据える中で受け入れとかも含めて、検討していこうというのが、この在り方検討委員会の趣旨だったが、想像以上に皆さんが活発に意見を出してくれ、各地区の学校のあり方について真剣な議論をいただいた。提言の柱にあるように、安易に数が減ったから統廃合を進めようというのではなくて、まだまだ可能性としてはコミュニティスクールみたいなものを中心にしたリ、新たな学校のあり方義務教育学校とか、デュアルスクールとか、施設を幼小で連携して使うというようなことが考えられるということで、ご意見をいただいた。早速できるところから始めていこうということで、この後地区の運営協議会や、あるいは保護者説明会、地区説明会に順次移っていくような見通しが立っている。ハード面については、一番大きな校舎の事もあがるが、プールについて、それぞれ中学校が使っていない、小学校もほとんど使っていないので、これを撤去すると同時に、跡地利用で少し可能性を広げていこうということが出された。この後、市長の方に提言をするが、そんな経緯で5回の会議が終わったっていうかたちになる。

意外だったのは、デュアルスクールという言葉が出てきて、本来であれば、他県に単身赴任者の方、あるいは一定期間、仕事で来る方のご子息、子どもたちを短期的に受け入れるシステムであるが、市内で少し交流を持ったらどうなるか。例えば小規模校、八幡だ

とか岩手あたりの子どもたちは小規模のメリットもあるが大きな集団でもまれる経験が少ないので、例えば日下部小とデュアルスクールの連携を結んでお客さんじゃなくて、修学旅行を、あるいは体育大会みたいなのは、一緒にやるような感じで、また、大きな学校でくたびれたとか、いろいろ不登校とかあるような子は、自然に近い小さい学校で少しゆったり過ごすというような連携の可能性も山梨市独自で考えられないかという話になっています。そうすると、日下部とか加納岩みたいに当面統廃合は関係ない学校も、自分たちの問題として、どう受け入れたらいいのかとかいうようなことも、議論が深まって、本当に全体でよく話ができたとと思う。

よろしいか。何か質問等あるか。

教育委員

なし

教育長

次に(4)その他、何かあるか。

教育委員

なし

教育長

以上で議事を終了する。